



# 農村地域人口と農業集落の将来予測

— 西暦2045年における農村構造 —



令和元年8月  
農林水産政策研究所

# 1. 農村地域の人口推移と将来予測

- ▶ 人口減少の進行は、農業地域類型間で大きな差。人口減少に転じた時期が早い山間農業地域では、1970年以降一貫した減少。今後も更に人口減少が進むと見込まれる。
- ▶ 2015~45年の30年間で、山間農業地域の人口は半減し、過半が65歳以上の高齢者になると見込まれる。平地農業地域でも人口が3割以上減少し、高齢化率が40%を超える。

(指数：2015年=100)

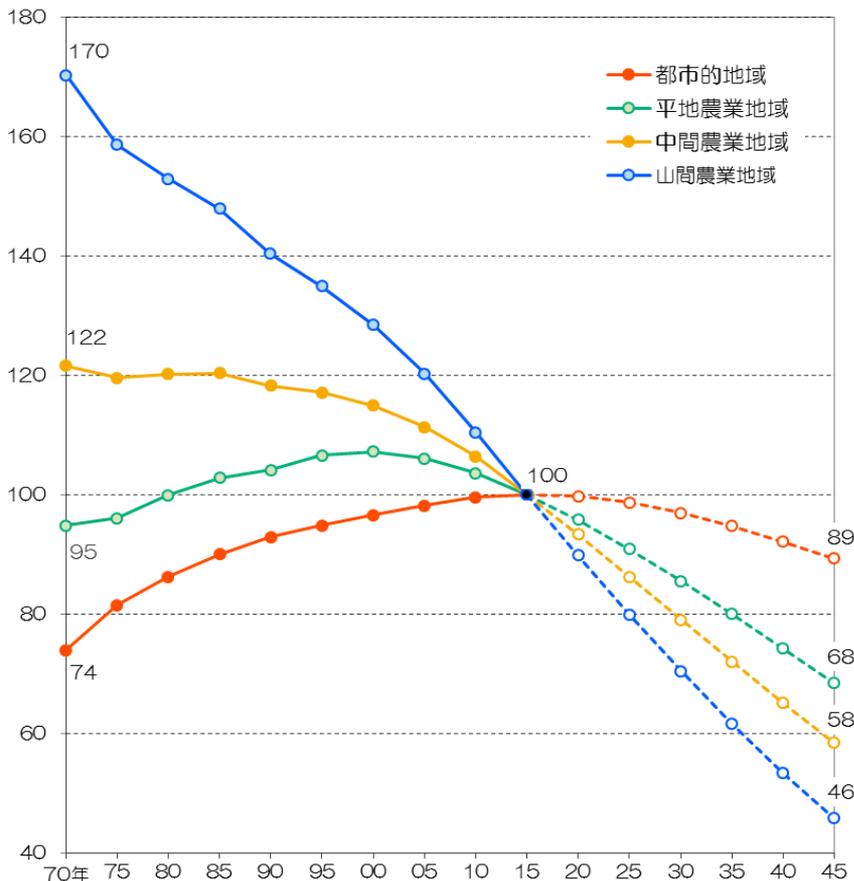


図1 農業地域類型別の人口推移と将来予測

表1 農業地域類型別の人口推計結果

		2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
実数 (万人)	全 国	12,709	12,532	12,254	11,913	11,522	11,092	10,642
	都市的地域	10,263	10,237	10,122	9,945	9,718	9,451	9,160
	平地農業地域	970	929	881	829	776	720	663
	中間農業地域	1,133	1,057	977	896	816	737	662
	山間農業地域	344	309	275	242	212	183	157
指 数 (2015年=100.0)	全 国	100.0	98.6	96.4	93.7	90.7	87.3	83.7
	都市的地域	100.0	99.8	98.6	96.9	94.7	92.1	89.3
	平地農業地域	100.0	95.8	90.9	85.5	80.0	74.2	68.4
	中間農業地域	100.0	93.3	86.2	79.1	72.0	65.1	58.4
	山間農業地域	100.0	89.8	79.9	70.4	61.6	53.3	45.8
増 減 率 (%)	全 国		▲ 1.4	▲ 2.2	▲ 2.8	▲ 3.3	▲ 3.7	▲ 4.1
	都市的地域		▲ 0.2	▲ 1.1	▲ 1.7	▲ 2.3	▲ 2.7	▲ 3.1
	平地農業地域		▲ 4.2	▲ 5.1	▲ 5.8	▲ 6.5	▲ 7.2	▲ 7.8
	中間農業地域		▲ 6.7	▲ 7.6	▲ 8.3	▲ 8.9	▲ 9.6	▲ 10.3
	山間農業地域		▲ 10.2	▲ 11.1	▲ 11.8	▲ 12.6	▲ 13.4	▲ 14.1
65歳以上 人口比率 (%)	全 国	26.6	28.9	30.0	31.2	32.8	35.3	36.8
	都市的地域	25.2	27.3	28.2	29.4	31.2	33.8	35.3
	平地農業地域	29.4	33.0	35.4	37.1	38.7	41.2	43.3
	中間農業地域	33.2	36.8	39.2	41.0	42.5	45.0	46.9
	山間農業地域	38.5	42.5	45.4	47.5	49.2	51.7	53.7

注1) 国勢調査の組替集計による。なお、2020年以降(点線部分)はコーホート分析による推計値による。  
 2) 農業地域類型は2000年時点の市町村を基準とし、2007年4月のコードを用いて集計した。

注1) 国勢調査の組替集計による。なお、2020年以降(点線部分)はコーホート分析による推計値である。  
 2) 農業地域類型は2000年時点の市町村を基準とし、2007年4月改定のコードを用いて集計した。

## 2. 農業集落の平均像とその変化

- ▶ 全国平均でみた農業集落の姿（現況の集落構造）は、世帯数50戸，うち農家数11戸，人口174人，高齢化率35%，耕地面積（属地）17ha。
- ▶ 中山間地域の集落は規模が小さく，高齢化も進んでおり，特に，山間農業地域での世帯数及び人口の減少，高齢化の進行が顕著。
- ▶ 集落内の農家数減少は著しく，平地農業地域を除き販売農家数は一桁（山間農業地域では，1集落当たりわずか4戸）

表2 中央値（Median）でみる各地域の平均的な農業集落像の変化

	1集落当たりの世帯数 (戸)		総農家数 (戸)		販売農家数 (戸)		1集落当たりの総人口 (人)		高齢化率 (%)		1集落当たりの耕地面積 [属地面積] (ha)		田面積 (ha)	
	2010年	2015年	2010年	2015年	2010年	2015年	2010年	2015年	2010年	2015年	2010年	2015年	2010年	2015年
全 国 (算術平均)	51 (198)	50 (201)	14 (18)	11 (15)	9 (12)	6 (9)	188 (863)	174 (856)	30.3 (32.1)	34.8 (36.6)	18 (35)	17 (33)	12 (21)	11 (20)
都市的地域	210	220	14	12	8	6	938	934	23.6	27.9	14	13	10	9
平地農業地域	56	57	17	15	13	10	204	190	28.4	32.7	34	34	23	23
中間農業地域	39	38	13	11	9	6	126	113	33.6	38.2	16	15	11	10
山間農業地域	26	24	10	8	6	4	72	62	39.9	44.6	10	9	7	7
北 海 道	17	16	5	5	5	4	61	54	33.3	38.2	106	106	50	49
都 府 県	53	52	14	12	9	7	196	182	30.2	34.7	17	16	12	11

資料：農林業センサス農山村地域調査（2010年，2015年），地域の農業を見て・知って・活かすDB（2015年）。

注 1) 全国の下段に（ ）内で示した数値は，算術平均値である。

2) 集落の人口及び高齢化率は，国勢調査の人口データを農業集落別に推計したものである。

### 3. 農業集落の変容と集落の活動状況

- この5年間に4割強の集落で世帯数が減少（中山間地域では約半数→「空き家」の増加）。集落人口でみると、8割以上の集落が人口減少。全地域で人口減少率が高まる傾向。
- 2015年の集落調査結果をみると、人口規模の小さな集落、高齢化率の高い集落ほど集落活動が停滞する傾向にある。特に、「人口が9人以下」の集落で活動が著しく低下。

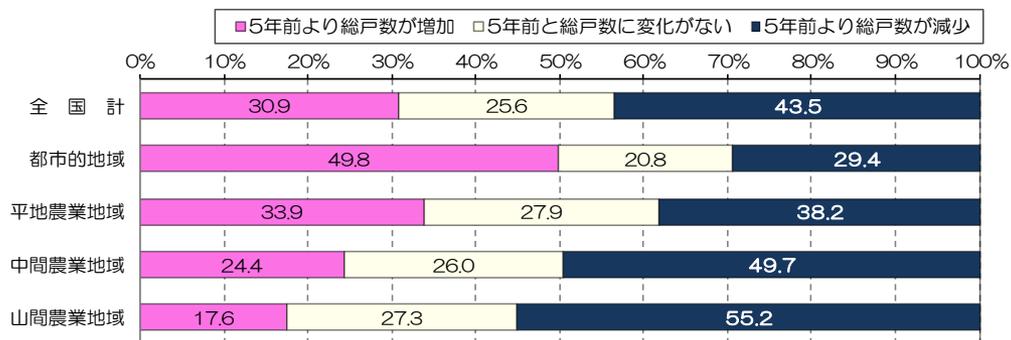


図2-1 農業地域類型別に見た総戸数増減別農業集落数割合（全国：2010-15年）

資料：農林業センサス農山村地域調査（2010年、2015年）

注：2010-15年間に分割・合併等を行っていない129,997継続集落のみを対象。

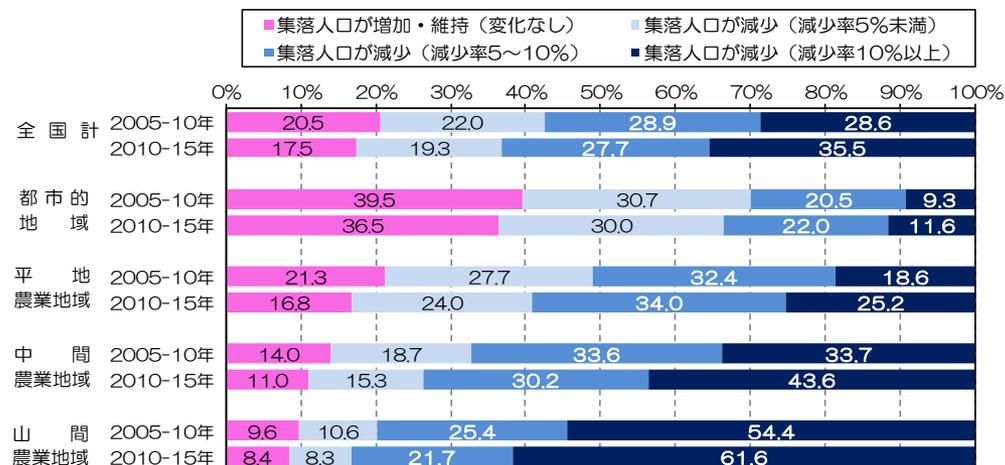
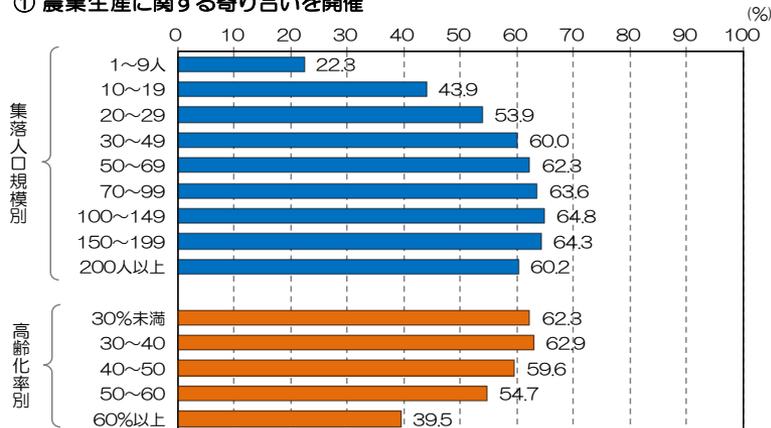


図2-2 5年間の人口増減別農業集落数割合の推移（全国）

資料：地域の農業を見て・知って・活かすDB（2015年）

注：国勢調査の人口データを農業集落別に集計した推計人口に基づく。

#### ① 農業生産に関する寄り合いを開催



#### ② 農業用排水路を集落で保全・管理

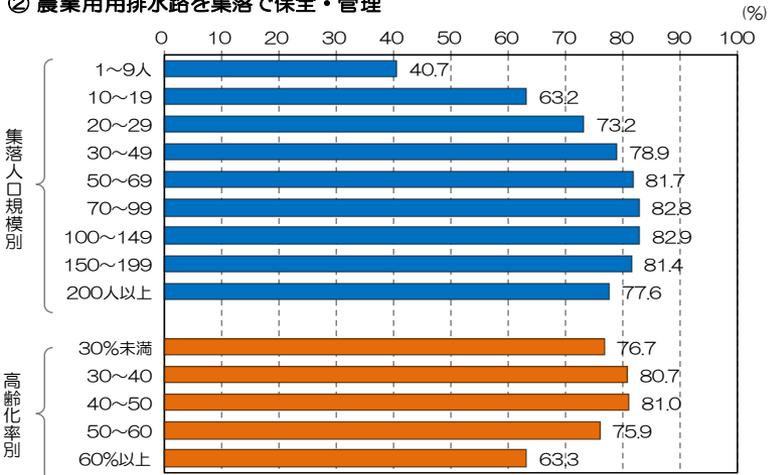


図3 人口規模・高齢化率別に見た集落の活動状況（2015年）

資料：農林業センサス農山村地域調査（2015年）、地域の農業を見て・知って・活かすDB（2015年）。注：集落人口及び高齢化率は、国勢調査の人口データを農業集落別に推計した値に基づく。

## 4. 集落の人口規模、年齢構成の予測

- ▶ 集落ごとのコーホート分析により30年後（2045年）の集落人口を推計すると、集落の縮小が進行し「人口9人以下」の集落が全体の9%を占める（山間農業地域では25%）。
- ▶ 集落の縮小（小規模化）と並行して世帯員の高齢化も加速。集落人口の過半が65歳以上となる集落（「高齢化率50%以上」の集落）が山間農業地域で65%，中間農業地域でも57%を占める。

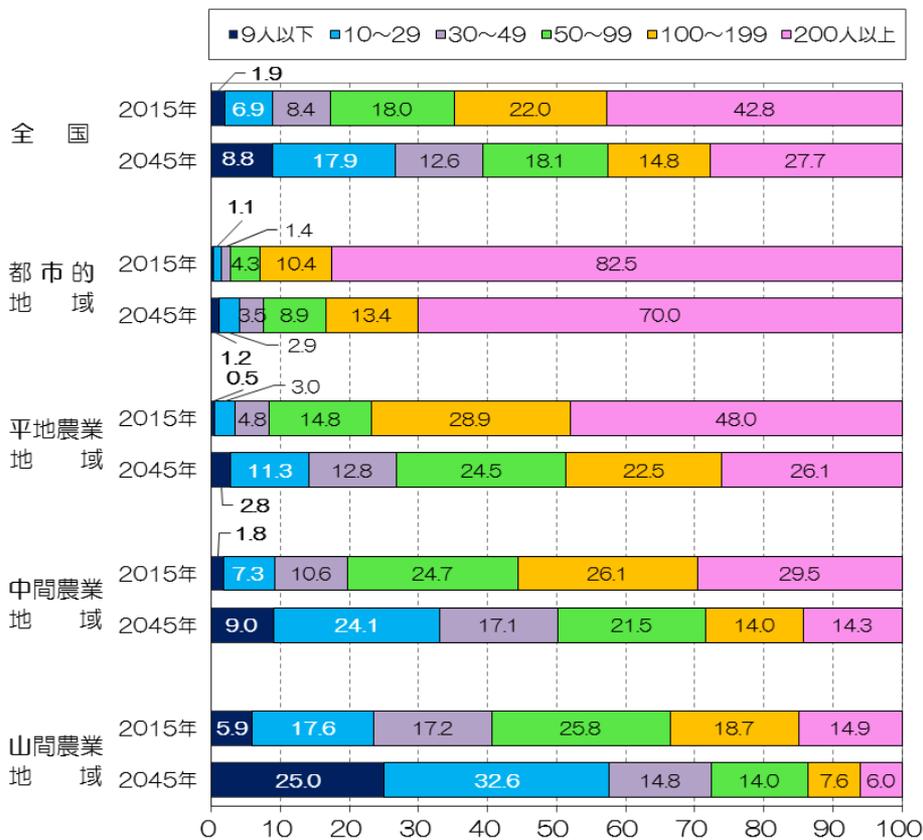


図4 集落人口規模別の集落数構成 (%)

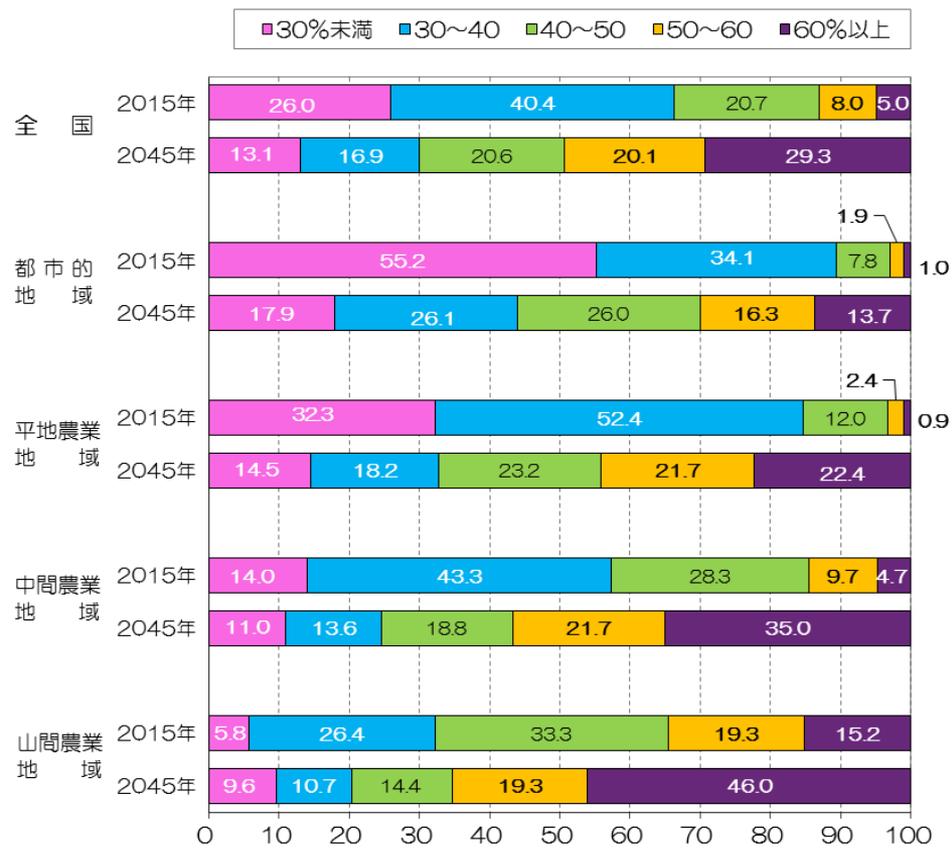


図5 高齢化率別の集落数構成 (%)

資料：地域の農業を見て・知って・活かすDB（2015年）。  
 注：2045年の割合は、集落ごとに行ったコーホート分析による推計人口に基づく。  
 なお、「9人以下」には、無人化した集落（集落人口0の集落）を含む。

資料：地域の農業を見て・知って・活かすDB（2015年）。  
 注：2045年の割合は、集落ごとに行ったコーホート分析によって推計した年齢別の集落人口に基づく。  
 なお、2015年、2045年ともに、有人集落を母数とした集落割合である。

## 5. 「存続危惧集落」数等の推計結果

- ▶ 約14万の農業集落のうち集落の存続が危惧される、集落人口が9人以下でかつ高齢化率が50%以上の集落（「存続危惧集落」）が、2015年の2千集落から30年後（2045年）には1万集落へと4倍以上に増加。これら集落の9割が中山間地域に所在する集落。
- ▶ 今後30年間で、現在の集落人口が3分の1未満になる集落が3万集落を超える（全集落の23%）。
- ▶ 有人集落のうち、集落人口の3分の2以上が65歳以上となる超高齢化集落が、4千集落から2万7千集落に増加。他方、14歳以下の子供がいない集落も9千集落から3万集落に増加。

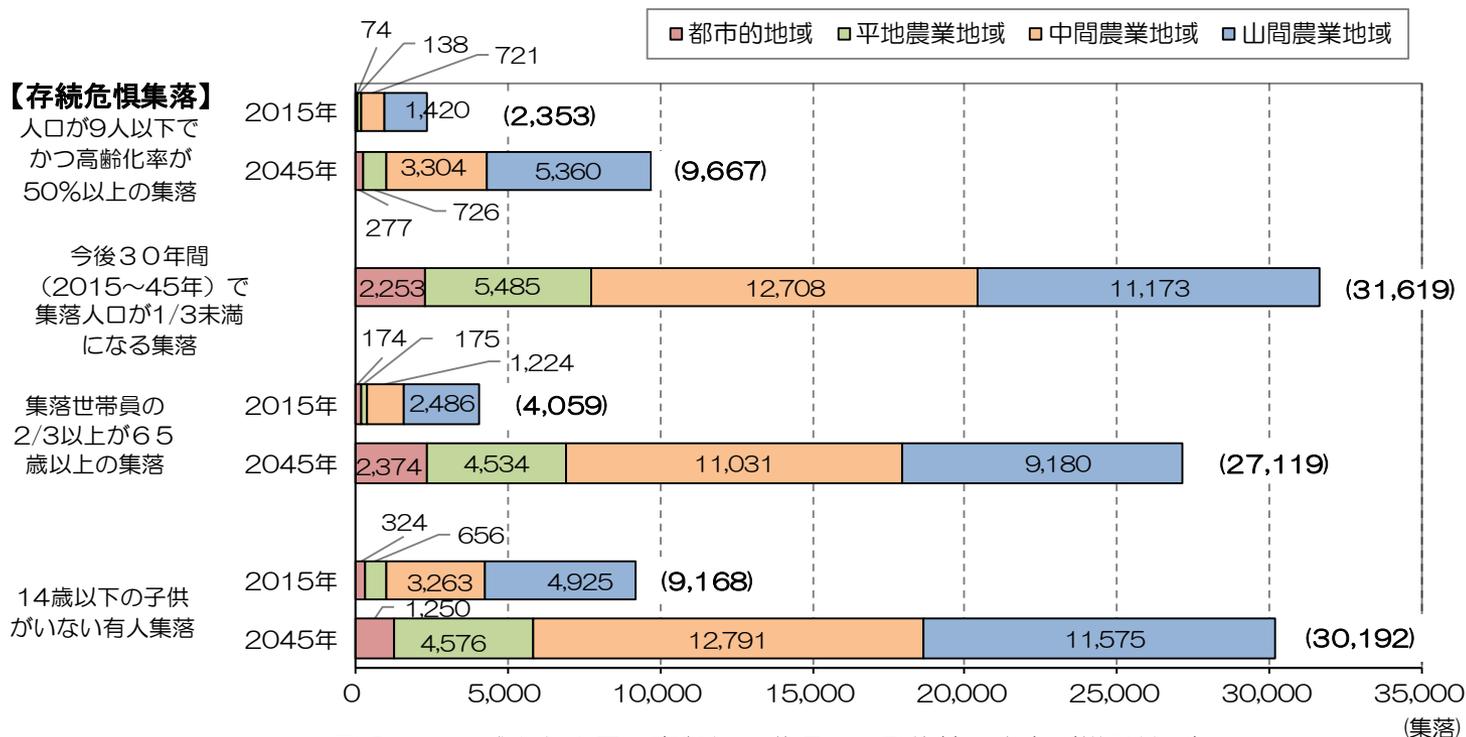


図6 人口減少と少子・高齢化の進行による集落の変容（推計結果）

資料：地域の農業を見て・知って・活かすDB（2015年）。  
注：集落ごとに行ったコーホート分析によって推計した年齢別の集落人口に基づく。

## 6. 都道府県別の「存続危惧集落」数の予測

- 「存続危惧集落（集落人口が9人以下で、かつ高齢化率が50%以上）」の占める割合が、30年後（2045年）に10%を超えると見込まれる都道府県は、北海道、石川と和歌山、島根、山口、徳島、愛媛、高知、大分の西日本の各県。

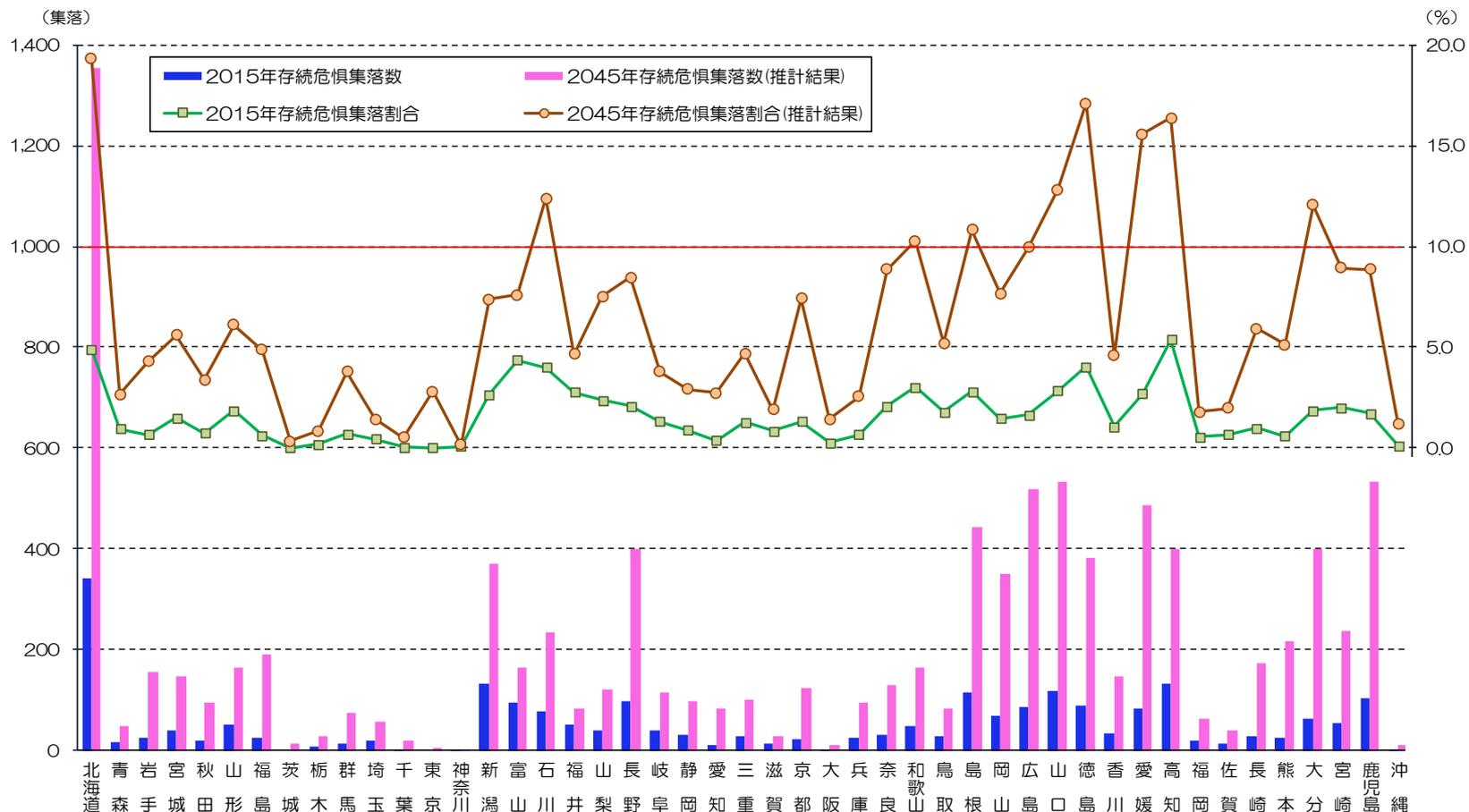


図7 都道府県別の「存続危惧集落（人口9人以下&高齢化率50%以上）」数及び同割合

資料：地域の農業を見て・知って・活かすDB（2015年）。

注。2050年の割合は、集落ごとに行ったコーホート分析によって推計した年齢別の集落人口に基づく。なお、「存続危惧集落」には人口がゼロの集落を含む。